

◇全館共通項目は、中央図書館を含めた中心館が共通の意識を持って取り組んだ事業。
◆館の重点評価項目は、中央図書館が重点的に取り組んだ事業。

中心図書館名：中央図書館のみ

区分	施策・事業名	概要	実施結果	評価		
				自己評価	外部評価	
課題解決型図書館	◇全館共通評価項目	・市民に身近な課題解決のためレファレンス(調査・相談)サービスを充実させ、迅速かつ的確な情報提供を行う。	・中央図書館のレファレンス受付件数は23,879件で、前年度に比べ約1割減少した。 ・庁内掲示板で、市職員に向けてのレファレンスサービス活用の呼びかけや自治体情報誌の目次情報の提供を行った。	・レファレンス件数は前年度に比べ減少し、目標に達することができなかった。要因としてPR不足が考えられるので、くらしやビジネスを行う上での図書館活用について、積極的なPRに努める。	3 大変評価する。 29%	・新潟市の人口減、予算縮小、利用者減という中では、レファレンス受付件数の減少もある程度自然な姿と言える。しかし、利用者はよりかしく図書館を使いこなしていくべきであり、そうされるための努力(=PR)が必要である。 ・市職員に向けての呼びかけは、よい企画だと思う。呼びかけが結果に結びつくまでには時間がかかるが、職員の認知は、市の活動にも役に立つと思う。 ・些細な事柄でも、真摯に対応してもらっている。レファレンスサービスの更なる能力向上を望みます。 ・件数減の理由がPR不足なのか分析が必要だろう。図書館を介さずして調査する人も増えていると思われる。件数を増やすことに徹底してこだわることもないのではないか。 ・市民に課題解決のための手法を教えることが大切。(答えを直接教えるだけでなく) ・サービスの充実に向け、PRを含め良く努められていると思う。件数の減少の要因をもう少し分析しても良いのではないかと。提供者への満足度はどうであったのか。 ・要因はPR不足だけでなく、インターネットでの解決も増えています。数字にこだわらず解決の手立てを確かなものにするのだと思います。 ・レファレンス向上の為、職員の研修に力を入れ、スキルアップをしてほしい。利用者によりやすいくレファレンスを提案してほしい。再度PRが必要に思う。 ・やはり、本質的には市民にこのサービスの周知を図ること内容の質の向上につきますと思う。周知は小中学校の授業などでも取り上げられてもよい。レファレンスの質の向上は、人材の育成、外部からの支援等が大切。
	◆館の重点評価項目	・職員のレファレンス能力の向上のため、レファレンス研修を実施する。	・職員向けレファレンス研修を2回実施した。 ・1回目は、外部講師を招へいし、郷土資料についての研修を実施。参加者77名。 ・2回目は、複数の例題を出し、自らの図書館の資料を使って実際に取り組んでもらう研修を行った。参加者56名。	・郷土資料についての研修を受講した職員からは、とても分かりやすかったとの声が多く聞かれ、今後の図書館サービスに役立つ内容となった。 ・自らの館の資料を使ってレファレンス例題に取り組む研修は初めての試みだったが、より実務に近い研修となり、今後もスキルアップのため継続していく。	3 大変評価する。 64%	・自らの館の資料を使つての研修を行ったところを高く評価したい。新潟市立図書館にはそれぞれの長所・特徴があるので、その長所・特徴を生かしたレファレンスサービスを望む。 ・実質的・建設的取り組みと思う。 ・図書館の職員としての専門性(特に地域に関すること)を高める取り組みは大変良いと思います。 ・サービス内容を特化させた(郷土資料)このような研修は効果的なのではないか。 ・日常的に細かな問題などを職員同士で話し合い情報を共有する。 ・多様化した現代に対応すべく研鑽を良くされていると思う。スキルアップが、どのようにかされたかを明文化されたかを引き継いでもらいたい。 ・レファレンス向上の為、職員の研修に力を入れ、スキルアップをしてほしい。利用者によりやすいくレファレンスを提案してほしい。再度PRが必要に思う。 ・図書館に出向いて調べようとする意欲のある人は専門的な内容を求めているものと思われる。それに応えるための研修は大切であり、今後も継続してほしい。 ・こういう取り組みを図書館の幹部の方たちの力量、市の職員の幹部の人たちの力を借りて行うことが大切。職員の職務遂行能力、企画経営能力の向上とあって、研修を深めることが大切。
特色ある地域型図書館	◇全館共通評価項目	・各区分を代表する人物・自然風土・産業等の地域コレクションの形成と展示を行う。	・特別コレクション室展示の開催 「戦争を描く―新潟ふるさと作家展―」 H28.7.7~10.4 「郷土雑誌あれこれ展」H28.10.6~H29.2.28 「北原白秋といがた展」H29.3.2~6.27 ・地域連携事業講演会「沼垂地区の文人あれこれ」を開催。	・特別コレクション室の展示を行い、所蔵する郷土資料を知ってもらう機会を提供し、理解を深めてもらうことができた。 ・地域の歴史研究グループや東地区公民館と連携協力しながら、地域連携事業を開催することができた。	3 大変評価する。 64%	・地域コレクションは地域図書館の最大の強みである。このような展示会を積極的に広報してもらいたい。 ・終戦記念日をきんで、「戦争」を考える展示は、時期と内容がふさわしく、市民も身近に感じたと思う。郷土雑誌や白秋など新潟の文化、人とのつながりに視点をのいた展示はこれまでにない企画でよかった。 ・地域の館ごとに特色を守り伝えていく事は大切だと思われる。 ・レファレンス能力の向上にも資する内容だ。積極的に取り組んでほしい。 ・これらは「少人数、多種類」なのでもっと対象ポイントをしぼった方がよい。 ・実施された内容も新潟・地域に密着して良いと思う。これからは連携協力団体(施設)を広げ、地域連携事業を実施してもらいたい。 ・いつも目を引く展示に心がけておられました。 ・特別コレクション展示室を知らない市民が多数だと思うので積極的PRをした方が良いのでは? 時間を決めてコレクション展示室の解説を行ってみたいでしょう。 ・地域の図書館を目指す上で、地域コレクションは大切な視点である。 ・いろいろなところと協力して、よい企画を丁寧に行ってもらっている感が強い。こうした企画を通して図書館などに関心、興味を持ってもらうことが大切。
	◆館の重点評価項目	・図書館協議会合同情報交換会を開催し、図書館の事業についての理解と関心を深めていただくとともに、話し合われた内容を図書館の運営に活かす。	・合同情報交換会では、各地域のボランティア活動の状況を情報交換し、ボランティアを育成するための提案について意見交換を行った。	・アンケートでは、合同情報交換会が「役に立った」という割合が94%だった。 ・分科会について、他の委員の意見を聞いたり、他の地域のボランティア活動について情報交換でき、有意義だったとの声が多かった。 ・アンケートで今後取り上げてほしいテーマとして、図書館へ来館しない人への働きかけや成功事例の共有が複数あったため、29年度のテーマ選定や事業実施につなげる。	3 大変評価する。 50%	・合同情報交換会に初めて参加したが、大変面白いものであった。しかし、一方で、他館の協議員の立場も自館とあまり変わらず、もっと多様な人材の多様な意見が聞けるような場があればさらによいと思った。 ・情報交換会では、各館のとりみや考え、状況などを知る機会でもあり、有意義。人数もテーマも多いため、効率的な進行運営も必要。 ・分科会は、意見が出し易く他館の情報が伝わってくる。(東区にだけ協議会委員がいないという意見が3年前程に出たが、中央に東区の枠を設けたらどうか。) ・今後も継続が必要。 ・大変意義あることを実施し、ボランティアの資質を高めている。 ・合同情報交換会の輪を広げて多方面(全県)の意見を聞くようになればよい。図書館に行く事が出来ない人(障がい者)への貸出方法をPRしてほしい。 ・やはり、時間の問題や意見の質の問題など乗り越えるべき課題は多い。いろいろな機会に委員以外の人たち(ボランティアや利用者、連携機関の人たち)の声を真摯に聞いていく必要がある。よいアイデアを探すべきが大切。
子ども・社会・民融合型図書館	◇全館共通評価項目	子どもの読書環境の整備	・うちどく(家読)関連事業として、「子ども司書講座」を開催し、9名の参加があった。その他、新たに「うちどくブックリスト」(6種類)を作成した。 ・中央図書館では、2区5会場でブックスタートを実施。84回開催し、2,534名に絵本を手渡した。また、中央図書館で実施したブックスタートで13組に絵本を手渡した。全館での実施率は今までの最高95.3%となった。	・うちどく(家読)を推進するため、関係各課へのブックリストの配布を行い、うちどくの周知に努めた。 ・ブックスタートは、ブックスタートボランティアを不足している区での養成を行って連携を図りながらブックスタート事業を進めた。	3 大変評価する。 86%	・うちどく推進も、ブックスタート事業も思いつきの短期間実施ではなく、ねばり強い長期間実施に意味があると考えている。使える費用が減ってきたとしても、この事業はカットせず長く続けてもらいたい。 ・ブックスタート・うちどくなど、読書に親しみきっかけづくりであり、新潟市の将来を築く地盤となる事と思う。 ・早い時期(赤ちゃんのとき)から読書に親しみ文化を広げていただけたら、その後の取り組みもより一層成果が上がると思います。 ・館により温度差はあるもののブックスタートにおいて赤ちゃんタイムを伝えており、周知されてきていると思われる。 ・子ども向けの本は単に「ためになる本」だけを選んではないか考える必要がある。大人向けの本も子どもにも選択させても良いのではないかと。 ・うちどく(家読)が、子どもと保護者だけのものではなく、その祖父母または地域のリタイアされた方々も理解し楽しみながら「地域の宝」の子どもたちを育てていきたいものだ。そのシステムを担うのは公民館だろう。 ・ブックスタートは定着してきたように思います。 ・ブックスタートを受けた、パパ、ママの声が聞けない。後日アンケートを送付して頂いては!ブックスタート時、誘導もボランティアで行ったらどうでしょうか? ・ブックスタートは大変よい事業であった。成功していると思う。小中学校、子どもを預かり育てる機関との連携が必要。そこで職員の理解や意欲が大きくなる。そういう働きかけを慮らなくてほしい。
	◆館の重点評価項目	・学校、保育園、幼稚園、公民館などとの連携と支援	・市内4つの学校図書館支援センターが、学校・関係機関と連携し、学校図書館活用を推進する。 ・「地域と学校パートナーシップ研修会」に参加し、関係機関との情報共有を図る。	・継続的な学校図書館訪問や校長会での説明を通して、学校全体での図書館運営が進んだ。授業に必要な資料の提供や相談を行い、図書館活用を支援した。 ・主管課と情報共有を図り、学校図書館活用推進校事業や「教員と司書との連携充実」講座を支援センター通信等で特集、図書館活用の様子や成果を発信した。 ・特別支援学校における学校図書館整備検討会や先進地視察、司書配置シミュレーションを実施。 ・特別支援学校の学校図書館整備に向け、学校や関係課で課題を共有し学校司書配置につなげる事ができた。	3 大変評価する。 64%	・学校図書館をめぐる(行政的な)状況が刻々と変わっていく中で、学校司書の配置が全国的に進んできている。新潟市としては安泰と思わず、さらに学校図書館がよりよく活用されるように支援を考えてほしい。あわせて学校司書の待遇向上を望む。 ・支援センターの役割を委員を通じて初めて知ったが、幾重にも様々な立場から図書館活動、利用をサポートする組織づくりがなされていることはすばらしいと思う。 ・学校現場を支援していただき、大変ありがたく思っています。今後も連携を深め、読書活動や学校図書館運営がより一層充実していくことを願っています。 ・既存概念にとらわれず、これからは多様なイベントを願う。 ・将来の利用者増に結びつく活動だ。身近な施設であることを子どもにアピールしたい。 ・話を聞いただけで子どもの興味も薄れそう。 ・熱意をもって、仕事にあたりたいと思う。 ・大きな成果を上げていると思います。 ・図書館支援センター学校訪問の際、読み聞かせボランティアの方々や意見交換してほしい。桜ヶ丘小学校では1回のみ(昨年)。小学生・中学生の生徒に図書館に来て頂き、感想等意見交換してもらおう。 ・学校図書館支援センターの職員の方々による各校への支援は有意義である。特に新潟市の特色である司書の全校配置を生かすためにも、司書の研修、支援の充実を望む。 ・教育委員会、学校指導課との協力体制が欠かさない。誰かが協力してくれる、あるいは力のある人はいないのだろうか。お互い忙しいことがよく分かるが、学校が動かない時は、地域と一緒に活動で学校を動かすよ。
市民参画型図書館	◇全館共通評価項目	ボランティアや教育機関・民間団体等との協働	・読み聞かせ等ボランティアグループ交流会を実施し、38名の参加があった。	・各図書館に所属するボランティア団体や友の会やその他民間団体と協力し、30のイベントを実施した。今後も協働を図っていく。	3 大変評価する。 50%	・ボランティアの量も質も向上させることが重要である。こちらとしては何の根拠もないのであるが、グループ交流会が38名という数字は少ないように感じ、30というイベントという数は多いように感じた。 ・地域や様々な分野の団体との連携によって図書館がより市民に身近な存在になってほしい。図書館の役割が多様化していく中で、弱者の最初と最後の砦であってほしい。 ・新しいボランティアグループの場合、フォローを願う。 ・活動の結果がどうだったのか理解できない。自己満足だったのでは。 ・今後の協働も期待する。 ・ボランティア養成講座を年2回程実施し継続的にボランティア人員の確保してほしい。ボランティアの総合力を発揮して頂きイベントの数を増やしてほしい。 ・図書館へのボランティアの多さに驚いた。さらなる協働に向けて推進してほしい。 ・図書館の皆さんには、よく工夫され、しっかりと支援、協働の活動をしていただいていると思う。ボランティアの方々も成果を認識でき、活動が楽しい、人のつながりもできて有意義感が実感できると、次の活動につながるのだと思う。教員OBや市職OBの方々をお誘いするとよいと思う。
	◆館の重点評価項目	ボランティアや教育機関・民間団体等との協働	・市民のボランティア活動が継続できるよう、支援や情報提供をおこなう。	・養成講座修了者の今後の活動の支援を行う。既存団体への情報提供や支援を引き続き行う。	3 大変評価する。 38%	・読み聞かせボランティアの活動は(全国的に)一時よりも少し低調になってきているように感じている。読み聞かせ以外にもボランティアの活用を増やしていく必要がある。 ・講座はスキル向上と広報の両面をもち、個の連携にもつながると思う。 ・活動の結果がどうだったのか理解できない。自己満足だったのでは。 ・研修され、意欲を持ってもらえるボランティアの活動の場の支援やボランティア自身がいかにされる支援を望む。 ・引き続き養成講座を行ってほしい。年最低2回。